

Computer Report

Vol. 59 No. 3 3月号 (通巻 774号)

はじめの言葉

■「言論の自由だから発言は撤回しません」。言論は、世界人権宣言、日本国憲法を持ち出すまでもなく、その自由を保障されている。敢えて言うまでもないことだ。これを、事もあるか、日本の最高国家機関であり、最高権力機構である国会の場において、改めて強調されたのだから、驚いた。しかもその発言者が、現在日本の最高権力者自身であったことであり、自らの発言撤回を求められた時の答弁だったのだから、どっちらけ。

■まったく安倍晋三という首相には、言論の自由という基本的人権が、どういう精神のもとに謳われているものか理解できてないらしい。隣国の中国大陸、半島国家で言論の自由がどういう状態にあるのか、それを知らないとは言わせない。日本国最高権力者として、こうした隣国を相手にしたときこそ、基本的人権論の一環として訴求すべきである。最高権力者自身が国民に対して主張するべきものではない。品格の低さが際立つ瞬間だった。

■品格の無い言動に国境はない。半島の隣国大統領は、経年継続している国家間摩擦を、さらに炎上させる言動を繰り返し煽り続けている。戦後の国家間賠償合意があった後も、従軍慰安婦問題、徴用工問題と、解決済み問題を何度も取り上げ、隣国はそのたびに、補償金支払いの再要求をし続けてきている。現大統領は、今現在の日韓国家間状況の改善、調整をする姿勢を見せるどころか、真逆の発言をエスカレートさせている。

■戦後の日韓経済協力／交流を、すべて否定する方向で日韓関係を見直す姿勢すら示している。これまでも、大統領が替わる毎に、国家間合意を覆す姿勢を見せてきている隣国韓国だが、今回の大統領発言には、これまでの韓国という国家像を、自ら全面否定し、新たな国家樹立／新政府成立を宣言するかのような意図が見て取れる。全韓国国民の意見を代表しているとは、俄かに信じ難いところだが、そう解釈できるものがある。

■少なくとも、これまでの親密な日韓関係を保とうという姿勢は微塵もない。それどころか、明確に「反日本体制」に向けて動くことを宣言している。この姿勢には、戦後 70 年余の日韓関係を完全に否定するというより、自らかの立ち位置を、占領国日本時代の抗日運動戦士だと見立て（思い込み）、その妄想の中にあるようだ。独立運動の英雄戦士に憧れるだけでなく、それを今現在にあって、自作自演している錯覚状態だと言えよう。

■困ったチャン国家首脳は、日本、韓国だけではない。二度目の米朝首脳会談の主人公たちも然りである。従前の国家間合意を踏みにじるやり方は、米国トランプ大統領の常套手段だが、どれだけの他国家に面倒をかけていることか。実兄を暗殺し、国家元首に君臨しているトップを対等な外交相手にするトランプ米国には、これまでの民主主義国家の標榜とは大きくかけ離れた政治的ブレが認められる。いかにも品格のない政治的判断だ。

■最高権力者でありながら国民には、自らの言論の自由論をブチ上げ、トランプ大統領にはノーベル平和賞推挙の追従言論をする安倍首相にも、呆れかえる。日本国民としてはまさに「内憂外患」である。困ったチャンが国家を問わず出現している。これが世界のトレンドだなどと妙な納得をしているべきでない。また、戦勝記念日だ、建国記念日だと、お祭り騒ぎの周辺隣国のアナクロニズムにも巻き込まれたくない。そう思う。（藤見）